町政を問う（一般質問）

Q1 移住促進に向けての取組を問う

答 地域のコミュニティを基本に進める

小笠原妙子議員

移住促進に向けての具体的な取り組みと現状、その方法は。また、この取り組みについてはいつから行っているか。

……

▽岩﨑憲郎町長
人口が減少する中、その対策として常に考え取り組んできている。

……

▽小笠原妙子議員
BS日本テレビ「深層ニュース」で取り上げられていた宮崎県西米良村では、人口1,000人の村が現在1,200人になっているとのことである。移住促進に向けての取り組みの成果だと思う。また、保育所は一カ所で49名の保育園児がいるようだ。トップリーダーはもちろん役場の職員、村長も含めての行動力に感動を受けた。

今、本町にはどのような人材が必要なのか明確な人材の募集、本町での生活の営み、将来像を明確にして移住促進に取り組んではどうか。

……

▽岩﨑憲郎町長
地域のコミュニティを次の世代に繋いでいくことが基本にないと、移住政策は、良い結果を生むことが難しいと思っている。さまざまな提案、プレゼンをし、本町に対する思いを受け止め推進していくことが必要である。

……

※移住支援情報（大豊町ホームページから）
大豊町への移住は、移住する人にとっても受け入れる側にとっても、一つの大きな出来事です。何世紀にもわたる暮らしの営みに裏付けられた田舎の習慣やしきたりが、今もなお大切に受け継がれている地域も多く、そういったことを受け入れ、地域にとけ込んでくれるような人に来てほしいと地元の人は考えています。近所づきあいが希薄な都会から、習慣やしきたりを大切にする田舎への移住は、今までの慣れ親しんだ環境・習慣などを離れ、こういった大変さも受け入れるという覚悟が必要と思われます。

まずは一度大豊町へ足を運んでいただき、地理、気候、自然環境、そして田舎の不便さも含めて大豊町が気に入った方にはぜひ移住して頂きたいと思います。

……

失敗しない定住のために
（1）郷にいれば郷に従う。（2）地域にとけ込む努力を惜しまない。（3）地域に役立つ意識を持つ。以上の意識が高い方の定住を進めていきます。

Q2 こども食堂の開設は

答 地域での取り組みを支援する

▽小笠原妙子議員
民生委員の方や婦人会の方々の要望もあり、県内でも数カ所、子ども食堂を開設しているが、本町としての取り組みは考えているのか。また、住民側から要望があればできるか。

……

▽岩﨑憲郎町長
具体的に町として検討した経過はない。他市町村では、地域で取り組んでいる状況を行政が支援していると理解している。

……

▽小笠原妙子議員
県の児童家庭課の資料によると、現在県内の10市、7町、36団体、43カ所で行っているようだ。回数については、月のうち1回、週3回などさまざまである。大豊にも子どもの見守りとか、保護者間の繋がりを持ちたいという声を聞いている。場所的には大豊園の跡地等の声も出ているが。

……

▽岩﨑憲郎町長
町内で、希望があるとの話があったが、それではサービス受ける側の子供たちはどういう状況なのかは把握しているのか、あくまでも地域の取り組みとして育てていく視点でなければならないと思う。こども食堂に限らず、地域でさまざまな取り組みがある中で、公の施設をしっかりと住民のために使っていくことは、行政としても推進をすべきことである。

Q3 見やすい広報誌を

答 提案、意見を取りいれる

▽小笠原妙子議員
議会だよりがある時は24ページ、ない時は12ページとなっている。最後のページにイベント情報等があるが、所狭く詰め込み大変見づらく感じている。レイアウトをもう少し考えて見やすくなるようにしては。

……

▽岩﨑憲郎町長
町民の皆様から、広報誌をより良くするための提案、意見を積極的にいただきたいと思っている。

……

▽小笠原妙子議員
広報誌に、町内の事業所の求人の掲載は可能か、自社制作の広告や新聞の折り込み等、各事業所もいろいろ工夫はしている。広報誌ゆとりすとは、町内全戸への配布となるので効果も期待できる。町内の事業所も大変少なくなってきているため、有料で、町内住民の求人情報等の検討を。

……

▽岩﨑憲郎町長
全ての求人情報等となると、紙面も限られており、発行上のいろんな事情がある中での判断になってくる。

Q4 大田口保育所の統合を問う

答 理解を得ながら進めていく

大田口保育所

▽小笠原妙子議員
大田口地区の住民の方から相談を受けたが、大田口保育所の統合は平成30年4月でいいのか。新しい保育所が完成してからの統合ではだめなのか。

▽池添修一教育長
保護者や大田口地区住民に対する説明会での意見に対し慎重審議を行うため、8月28日に教育委員会臨時会を開催し、9月に2回目の保護者説明会を開催する予定である。教育委員会としては、平成30年4月を目途として進めていきたいと考えている。

Q5 嶺北博（仮称）に向けての取り組みを問う

答 嶺北4カ町村で検討する

▽小笠原妙子議員
8月30日に県アクションプランフォローアップ会議で議題にあがった嶺北博（仮称）に向けての取り組みについて、嶺北4カ町村が主体で取り組むという事であるが、優秀な職員の知恵を最大限に引き出し取り組んでほしいと思う。取り組みについて町長の考えを聞く。

……

▽岩﨑憲郎町長
博覧会について開催すべきか、開催すればどういう方向で、お互いがどう責任を持って進めるか基本的な部分について、町村間で検討することになっている。検討の中で、本町の考えを伝え、その結果によって行動する。

昭和63年に開催の88れいほく高速博覧会

Q6 介護保険改定への対応は

深刻な実態に寄り添った対応を

答 住民サービス全体で支えて行く

前野由和 議員

介護保険法が改定となり、より以上に自立を求める内容になっている。病院から介護へ、さらに在宅へと自立を促す方向になり、介護度を改善すれば報奨すること。一定以上の収入のある人への利用料負担増等となっている。さらに生活支援や福祉用具を介護保険のサービスから除外することも期限を切って検討することになっているが、実態に寄り添った対応を

……

▽岩﨑憲郎町長
社会保障給付費が過去最高を更新し続けているのが現状で、今後、介護や医療のニーズがさらに高まることが予想される。基本的に介護制度を継続していくための今回の改正だと思っている。法改正によって、指摘のような負担や給付制限・削減が生じることの情報もあるが、第7期介護保険計画に反映を

介護施設